

10

33

清水喜一郎編纂

刑法

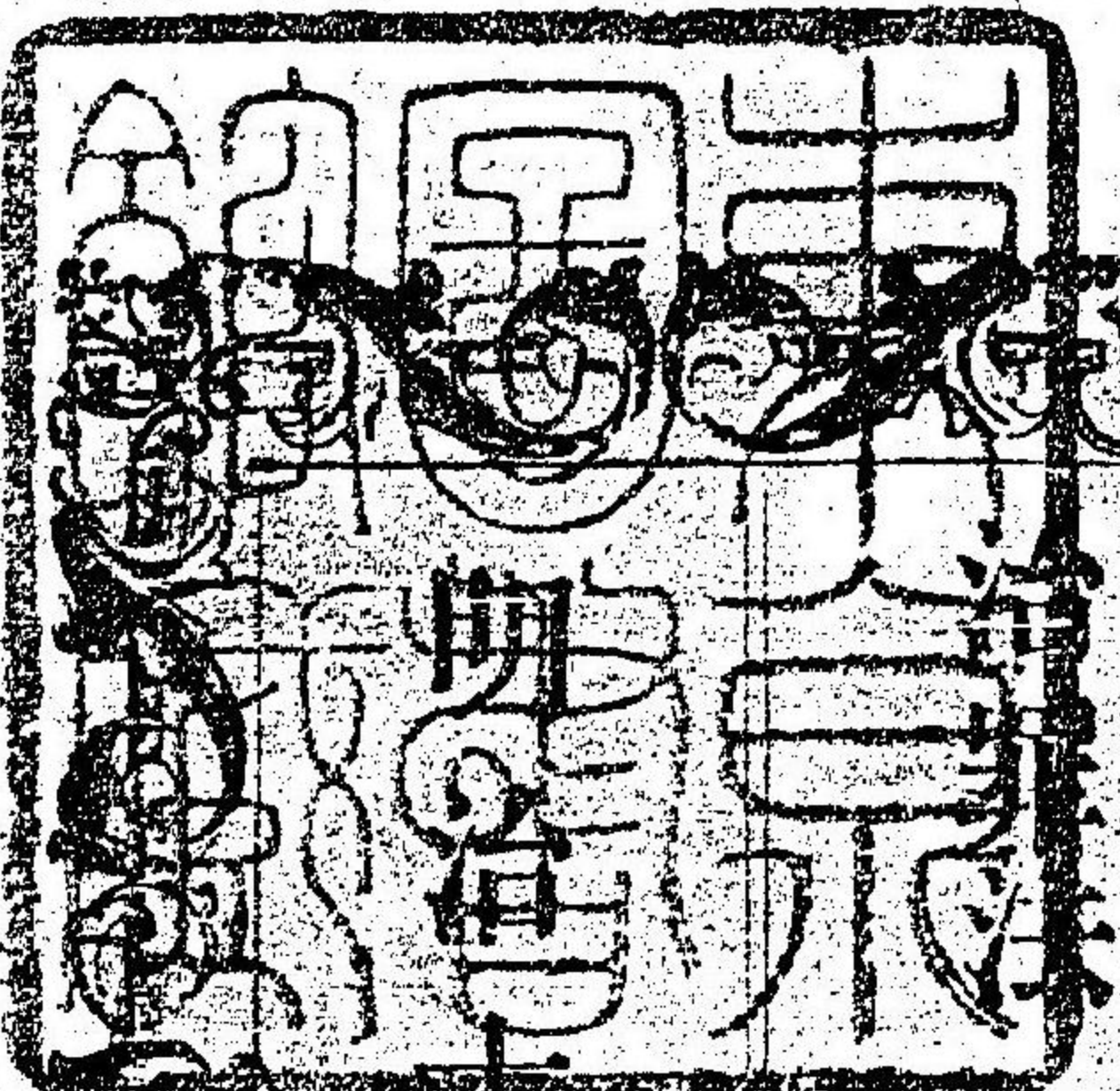
治罪法

警官職務彙

初篇

明治十六年一月印行

CZ 特16
74 50元
030



刑法

清水喜一郎編纂

警官職務要綱

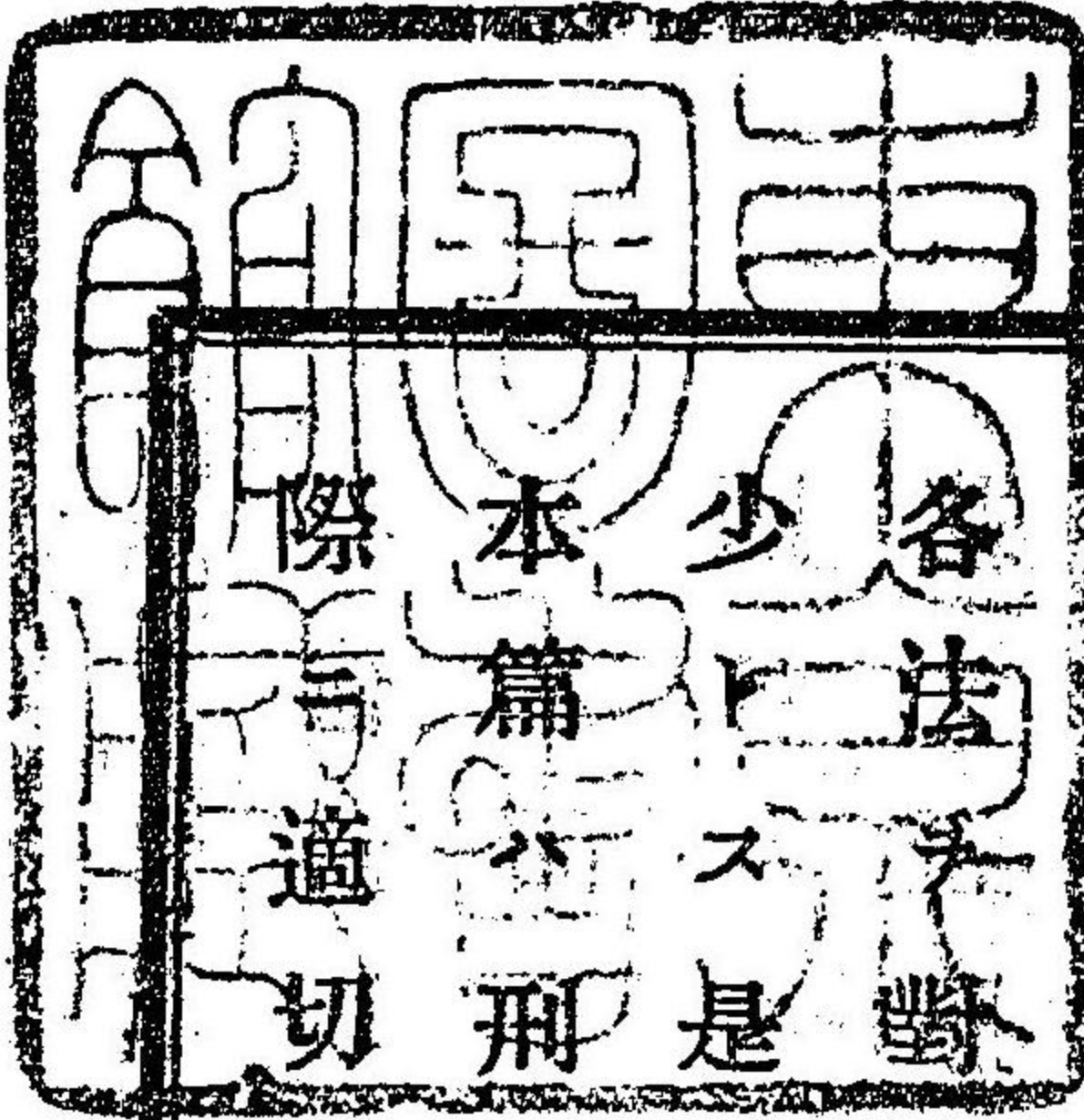
初篇

十六年一月印行



例言

凡ソ法律ハ意義深邃ニシテ容易ニ曉ルヘキ
ニ非ス故ニ朝廷新法ヲ頒布シテヨリ以來各
法ニ就キ一字一句毎ニ註解ヲ下シ且各項各
條ニ理由ヲ附シ其精細ヲ極ムルモノ頗ル多
シ然レモ概テ一法ニ就テ註釋スルニ過ズ其
各法ヲ對照比準スルモノニ至リテハ極メテ
少トス是レ余ガ本篇ヲ編纂スル所以ナリ
本篇ハ刑法治罪法警察規則ニ就キ務メテ實
際ニ適切ナル箇條ヲ拔摘シ傍ラ諸布達伺令



其他諸法律規則等ヲ斟酌シテ之ヲ補フモノ
 トス而シテ各法ノ交渉スル所ニ就テ比較準
 照スルモノハ實際法律ヲ適用スルニ當リ彼
 此ヲ對照スルノ煩ヲカラシメンカ爲メナリ
 明治十五年十二月
 編者識

刑罰法 警官職務必携初篇

- 第三十六號 明治十四年七月八日太政官布告 一丁
- 第四十四號 同年九月二十日布告 全丁
- 第四十六號 同 全十三丁
- 第四十七號 同 三十三丁
- 第四十八號 同 四丁
- 第五十九號 同年十月八日布告 全十三丁
- 第六十二號 同年十二月六日布告 全十三丁
- 第六十四號 同年十二月九日布告 五丁
- 第六十五號 同年十二月十五日布告 全丁
- 第六十七號 同年十二月十九日布告 六丁

- 第七十一號 明治十四年十二月二十八日布告 二十三丁
- 第七十二號 同 全 丁
- 第七十三號 同 二十五丁
- 第七十七號 同 二十六丁
- 第八十號 同 二十七丁
- 第八十一號 同 全 丁
- 第八十二號 同 三十二丁
- 正誤改正達 同年一月廿八日 三十三丁
- 第五號 同 全 丁
- 正誤改正達 同年一月廿二日 三十四丁
- 第七號 同年二月一日 三十五丁
- 第九號 同年二月九日 全 丁

- 第十四號 同年二月廿五日 全 丁
- 第十六號 同年三月三日 三十六丁
- 第十八號 同年三月廿三日 全 丁
- 第十三號 同十四年三月十八日 三十八丁
- 所屬代人規則 同年十二月二日 四十一丁
- 丙第四號 同年二月十六日 四十二丁
- 第二號 同年十二月廿八日 全 丁
- 第八十一號 同十四年九月十九日達 四十三丁
- 第三十九號 同十五年四月五日警視總監達 五十四丁
- 第四十號 同年四月八日 五十五丁
- 第四十三號 同年四月十一日 全 丁
- 第四十五號 同年四月十四日 五十六丁

- 第四十六號 明治十五年四月廿二日 五十六丁
- 第四十七號 同 五十七丁
- 第五十號 同年四月廿六日 全一丁
- 甲第三號 同年四月十二日 五十八丁
- 告第六號 同年四月十五日 五十九丁
- 品川巡查屯所長伺指令 同年三月七日 六十丁
- 甲第八號 警視總監 東京府知事 達 同年十月十九日 全一丁
- 現行犯 九則
- 第一條 治罪法第二百二條 參對照 二九則 六十九丁
- 第二條 同第二百五三條 參對照 一二則 七十六丁
- 第三條 同第二百三三條 參對照 一三則 七十八丁

令 狀

- 第四條 同第三百三十二條 參對照 一六則 八十丁
- 第五條 同第二百二十條 參對照 二四則 八十四丁
- 第六條 同第二百二十六條 參對照 二三則 八十七丁
- 第七條 同第二百二十八條 參對照 一四則 九十丁
- 第八條 同第三百三十三條 參對照 一三則 九十二丁
- 第九條 同第三百三十四條 參對照 二五則 九十五丁
- 書式 三則 九十九丁
- 人體略圖 百二丁

八種法

書式三

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十

刑法警官職務必携初篇

清水喜一郎 編纂

太政官布告

- 第三十六號 明治十四年七月八日
刑法治罪法來明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事
- 第四十四號 同年九月二十日
違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フヘシト雖モ實際
已ムヲ得サル場合ニ於テハ當分ノ内便宜取計ラヒ其裁判言渡ニ付
テハ總テ上訴ヲ許サス此旨布告候事
- 第四十六號 同年九月二十日
書類送達ニ付治罪法第二十四條ノ制限有之候ヘトモ當分ノ内ハ不
及其儀候事

治罪法第四十條ニ犯罪ノ地ヲ以テ裁判管轄ト規定有之候處當分ノ内犯罪ノ地分明ナル被告人ト雖モ管轄裁判所ヨリ囑託アリタル時ハ其被告人逮捕ノ地ノ裁判所之ヲ管轄スヘシ

治罪法第七十三條第二項ニ陪席判事四名ト有之候ヘトモ當分ノ内二名ト相定候事

治罪法第一百一條ニ准現行犯ノ場合列記有之候處其舉動犯人ト思料スヘキ者アル時ハ當分ノ内現行犯ニ准シ處分スルヲ得

治罪法第一百三十三條第三項ニ家宅搜索ノ制限有之候ヘトモ芝居人寄席飲食店湯屋遊船宿待合茶屋ノ類ハ日出前日没后ト雖モ其營業ヲ爲ス時間又旅籠屋貸座敷ハ日出前日没后ニ拘ハラヌ搜索致シ苦シカラス

治罪法第一百六十八條第一百七十二條ニ於テ治安判事ニ囑託スルヲ得

許シタル處分ハ當分ノ内其地ノ司法警察官ニモ囑託スルヲ得

治罪法第二百五條第十項但書ニ司法警察官ハ令狀ヲ發スルヲ得

サル旨記載有之候ハトモ當分ノ内現行犯ノ場合ニ限り令狀ヲ發シ

○ 苦シカラズ 若布告候事六日

○ 第四十七號 同年九月二十日

刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付スルニハ左ノ手續ニ從フヘシ此旨

布告候事

第一條 被告人ヲ責付スルニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出

ニ應ジ出廷セシムヘキ證書ヲ其裁判所書記局ニ差出サシムヘシ

第二條 責付中被告人ヲ呼出ス時ハ出廷ヨリ二十四時前ニ其通知

ヲ爲スヘシ

第三條 被告人呼出ヲ受ヌ正當ノ事由ナクシテ出廷セサル時ハ檢

事ノ意見ヲ聽キ責付ヲ取消スヘシ

○第四十八號 同十四年九月二十日

刑法治罪法中違警罪裁判ノ儀ハ當分三府五港ノ市區ヲ除クノ外府縣警察署又ハ警視分署ニテ裁判可致候條此旨布告候事

○第五十九號 同年十月八日

治罪法中豫審判事勾引狀ヲ發シ勾引セシメタル被告人ハ時宜ニ依リ其訊問期限四十八時間ニ在ル夜間ニ限リ裁判所又ハ最寄警察署留置場ニ入置クヘシ此旨布告候事

○第六十三號 同年十二月六日

明治十年月一第十三號布告府縣廳ノ條規ニ違犯スル者處分規則ノ儀ハ明治十五年一月二日ヨリ廢止スル旨布告候事
右奉 勅旨布告候事

○第六十四號 同年十二月九日

密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明文有之候ヘトモ當分以內其取締懲罰ハ從前ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官ニ委任ス

右奉 勅旨布告候事

○第六十五號 同年十二月十五日

商船内犯罪取扱規則別紙ノ通制定スル旨布告候事
右奉 勅旨布告候事

商船内犯罪取締規則

第一條 何人カモトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スルヲ得

第二條 船長告訴告發ヲ受ケタル時又ハ重罪輕罪ヲ現行犯アルヲ

ヲ知リ得ル時ハ其事件ニ付假ニ訊問檢證ノ處分ヲ爲シ且證憑及
 事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ集取シ調書ヲ作ルヘシ但調書ヲ作
 ルヲ能ハサズ時ハ第二條ニ記載シタル官吏ニ其申立ヲ爲スヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス
 第三條 船長ハ證憑及事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ取纏メ被告人
 共ニ該船碇泊又ハ着港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡スヘ
 キ若シ外國ノ港埠ニ着シタル時ハ其地駐節ノ領事ニ之ヲ引渡ス
 ○第六十五號 同十四年十二月十九日
 ○第六十七號 同十四年十二月十九日
 刑法附則別冊ノ通相定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 右奉勅旨布告候事
 ○第六十八號 同十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

刑法附則目錄

第一章 主刑執行

第二章 監視

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第四章 刑事裁判費用

第五章 賠償處分

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ獄司刑場ニ
 立會獄司ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行スヘキヲ告示シタル後獄丁ヲ
 シテ之ヲ執行セシム但其時期ハ午前十時トス
 第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外
 刑場ニ入ルヲ許サス但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在
 ラス

第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シ

タル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可シ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス 元始祭 孝明天皇祭 紀元節 春季皇靈祭 仁孝天皇祭 神武天皇祭 六月大祓 秋季皇靈祭 神宮神嘗祭 天長節 後桃園天皇祭 新嘗祭 光格天皇祭 十二月大祓

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ檢査セシメ果シテ懐胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ執行スヘシ

第六條 死刑ノ遺體ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時ハ獄司之ヲ許可シ下付スルヲ得

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ獄司

ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルヲ得

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ

一 裁判所ノ門前

一 犯罪ノ地

一 犯人住居ノ地

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ獄司ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ内務司法

兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ク可シ
第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免
セラレタル者家屬ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スコトヲ得但
其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限リ居住セシムル者ハ監獄近
傍ノ地ヲ限リ獄司ノ監督ヲ受ケシム若シ已ムコトヲ得サル事故ア
ラズ時ハ獄司ニ請フテ限外ニ出ルコトヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ
本刑期限内ニ雖ヒ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行ス可シ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコ
トヲ得

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者

ハ獄司之決許ス可キ

第十八條 一服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期

百日以内ニ工錢ヲ給與セシム

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置ス

ル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身

死スル時ハ之ヲ徵收セシム附加ノ罰金ニ於ル亦同シ

第二章 監視

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察

官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リ

タル時獄司ヨリ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ監視ヲ執行

セシム主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ付
 スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ
 第廿三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ監視ノ起算滿期ヲ記載シ
 タル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シ
 第廿四條 犯人ノ住居遠地ニ在テ一日程ヲ過クル者ハ獄司若シク
 ハ檢察官ヨリ先ツ最近ノ警察所ニ護送シ警察所ヨリ住居ノ地ノ
 警察所ニ送致ス可シ
 第廿五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其
 里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直ニ之
 ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ
 第三十一條ノ例ニ從フ可シ
 犯人ヲ送致スル時ハ第廿三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所

ニ送送ス可シ
 第廿六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期間遵守ス可
 可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下付ス可シ
 第廿七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可
 一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ
 出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムヲ得サル事故ア
 リテ警察所ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ
 二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス
 三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可
 ヲ受ク可シ
 四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サス若シ止ムヲ得サル事故

アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ
 第廿八條 監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ヲ臨檢スル
 可シ
 第廿九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルコトヲ許可シタル時ハ其事由
 ナ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第廿三條ニ記載シタル書類ヲ遞送
 ス可シ
 第三十條 他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ
 先方ノ地ニ滯留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與
 ス可シ
 犯人先方ノ地ニ到レバ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認
 印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直ニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ
 第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事

由ナ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添
 付シ警察所ニ差出ス可シ
 第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限
 間懲治場ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在
 リテ歸着スル實力ナキ者亦同シ
 第三十三條 懲治場ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地
 ニ歸着スル實力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行
 セシムルニシ
 第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯後犯共ニ監視ニ付ス可キ
 時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ並ニ
 主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行スルニシ
 第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮

ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入スヘシ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹守シ悛改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フヘシ

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレシメテ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ獄司ヨリ其證票ヲ犯人ニ下付ス可シ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日

二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事

三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事

四 假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日獄司ヨリ其證票ノ謄本ヲ添ヘ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十

五條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ヲ適用ス

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

- 一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ至リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受シ可シ但疾病又ハ已ムヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ
 - 二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス
 - 三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受シ可シ但他ノ府縣ニ轉移スルヲ許サス
 - 四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サス
- 第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルヲアル可シ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル獄司ニ遞送ス可シ

主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ懲治場ニ留置スヘシ

第四章 刑事裁判費用

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通辯人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ノ金額左ノ如シ

日當五拾錢 旅費一里拾錢 止宿料一宿貳拾五錢

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地ニ
滞在中ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅
費止宿料ヲ給セス

第五十條 證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求ニ非サレハ之
ヲ給與セス

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第九十條ニ從
ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ給スルコトアル
可シ

第五十二條 解剖含密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ
類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯

人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徵收ス

第五章 賠償處分

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還付スト雖
モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ請求ニ因リ還給セ
シムル者トス

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取シタ
ル物品ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直
チニ還給セシムルコトヲ得ス

若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムコトヲ得ス
但其買取者ハ賣者ニ對シ轉價ヲ求ムルコトヲ得

第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物現在ス
ル時ハ還給ヲ拒ムコトヲ得ス但典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對

シ轉償ヲ求ムルヲ得

第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トテ區別

シ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ

第五十八條 贓物已ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラサル時又ハ

其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得

第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ

現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルヲ得但失火ハ此限ニ在

ラス

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所

ニ請求スルヲ得若シ其審判已ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ非

サレハ之ヲ請求スルヲ得ス

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル

者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スヲ得其民事裁判所ニ

請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續人ニ

對シ之ヲ請求スルヲ得

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償

セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求ス

ルヲ得

○第七十一號 同年十二月二十八日

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク時ハ當分ノ内其所在ノ地警部

ヲシテ檢事ノ職務ヲ代理セシム

右奉 勅旨布告候事

○第七十二號 同年十二月二十八日

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷スヘシ

第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條 凡禁獄及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡罰金及ヒ科料ハ貳圓以上ヲ罰金ニ處シ貳圓未滿五錢以上壹圓九拾五錢以下ヲ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若シクハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ咎可申付トアルハ總テ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ

依テ處斷ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ輕罪裁判所

ニ於テ之ヲ裁判ス但始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得

右奉 勅旨布告候事

○第七十三號 同年十二月二十八日

治罪法ニ於テ無能力者法律ニ定メタル代人及ヒ民事擔當人ト稱スル者ハ左ノ通

無能力者 一未丁年者 二妻タル者 三白痴瘋癲人 四治産ノ禁ヲ受ケタル者

法律ニ定メタル代人 一未丁年者ノ父若クハ母又ハ親屬後見人 二夫タル者 三白痴瘋癲人ノ保管者 四治産ノ禁ヲ受ケタル者

ノ財産管理人

民事擔當人 一未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督
ヲ爲ス者 二夫タル者 三白痴瘋癲人ノ保管者 四雇主但雇人
其雇主ノ命シタル事件ヲ行フ時

右奉

勅旨布告候事

○第七十七號 同十四年十二月二十八日

本年^十月第五十四號ヲ以テ輕罪ニシテ豫審ヲ要セサル者ニ限リ治安
裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クヲ得ヘキ旨布告候處當分ノ内相川
豐岡洲本田邊脇町高山西郷平戸福江巖原天草大島大曲八戸ノ各治
安裁判所ニ於テハ輕罪裁判所ヲ開キ總テノ輕罪ヲ裁判スルヲ得
ヘシ但本文ノ場合ニ於テ訟庭内治罪ノ手續等ハ本年第五十四號布

告但書ノ通タルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○第八十號 同年十二月二十八日

本年^九月第四十八號布告左ノ通改正ス

違警罪ノ儀ハ本年第三十六號布告ニ據リ明治十五年一月一日ヨリ
治安裁判所ニ於テ裁判スヘキ處當分ノ内府縣警察署及ヒ其分署ニ
於テ裁判セシム可シ

右奉 勅旨布告候事

○第八十一號 同年十二月二十八日

刑法第三條第二項ニ依リ新舊法比照スルニハ左ニ從フ可シ
第一條 新舊法比照スルニハ左ノ如シ

新法

舊法

新法

舊法

一死刑 斬絞 二無期徒刑 懲役終身
 三有期徒刑 四無期徒刑 禁獄終身
 五有期徒刑 六重懲役 懲役十年
 七輕懲役 懲役七年 八重禁獄 禁獄十年
 九輕禁錮 禁獄七年 十重禁錮 上懲役十一年以下
 十一輕禁錮 禁獄五年以下 十二拘留 科贖罪收贖罰金
 十三罰金 懲役禁獄鎖錮 十四科料 科贖罪收贖罰金
 第二條 舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期內ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊
 法ノ刑期ニ過クルコトヲ得スニ照シニ於テ懲役百日ニ該ル者新法
 法ノ刑期ニ過クルコトヲ得スニ照シニ於テ懲役百日ニ該ル者新法
 十日ハ舊法ニ從ヒ禁獄三十日ニ該ル者新法ニ從ヒ禁獄三十日ニ該ル者新法
 十日ハ舊法ニ從ヒ禁獄三十日ニ該ル者新法ニ從ヒ禁獄三十日ニ該ル者新法
 十日ハ舊法ニ從ヒ禁獄三十日ニ該ル者新法ニ從ヒ禁獄三十日ニ該ル者新法

第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短キ者ニ從
 フ但其長期ノ短キ者ニ過ルヲ得ス下舊法ニ於テ一年以上三年以
 ノ重禁錮ニ處スルノ類
 若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役
 アル時ハ舊法ニ從フ者新法ニ於テ二月以上二年以下ノ禁獄ニ該ル
 該ル時ハ舊法ニ從ヒ二月以上二年以下ノ禁獄ニ該ル
 二年以下ノ禁獄ニ處スルノ類
 第四條 舊法ノ贖罪收贖若クハ罰金科料ノ金額新法主刑ノ金額內
 ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ金額ニ過クルヲ得ス
 第五條 舊法新法ノ罰金科料共ニ多數寡數アル者ハ其寡數ノ寡キ
 者ニ從フ但其多數ノ寡キニ過クルヲ得ス
 第六條 舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加ス可
 キ時ハ其罰金ヲ附加セス

第七條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金科料ニ該ル時ハ新法ニ從フ

舊法ニ於テ贖罪收贖若クハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照シ體刑ニ該ル時ハ舊法ニ從フ

第八條 舊法ニ從ヒ贖罪收贖ニ處シタル者其金額ヲ延期限内ニ納完スル能ハサル時ハ一日ヲ壹圓ニ折算シ輕禁錮又ハ拘留ニ換フ但壹圓未滿ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セス但除族退奪位記沒收ノ類ハ舊法ニ從フ

第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セス

第十一條 華士族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ從ヒ處斷スル時ハ其族ヲ除セス

第十二條 新法ト舊法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

第十三條 舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ス右奉 勅旨布告候事

第一條 治安裁判所ハ訴訟事件ヲ勸解ス但諸官廳ニ對スル事件及ヒ商事ニ係リ急速ヲ要スル事件ハ勸解スルノ限ニ在ラス

第二條 治安裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓未滿ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第三條 治安裁判所ハ人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノヲ裁

判スルヲ得ス

第四條 始審裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓以上並ニ第三條ニ揭ケタル治安裁判所權外ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第五條 始審裁判所ハ其管轄地内ノ治安裁判所ノ始審裁判ニ對スル控訴ニ付終審ノ裁判ヲ爲ス但控訴ノ手續ハ明治十年第十九號布告控訴手續ニ照準スヘシ

○第壹號 明治十五年一月九日

治罪法第三百八十一條第一項ニ若シ辯護人ナクシテ辯論ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ効ナカルヘシト有之候得共其裁判所々屬ノ代言人無之場所ニ於テハ當分ノ内辯護人ヲ用ヒサルモ其刑ノ言渡ハ無効ノ限リニ在ラス

右奉 勅旨布告候事

○明治十五年一月十四日

明治十四年^月第二十八十一號布告中

初項 (比照スルニハ左ノ下ノ例)ノ二字ヲ脱ス

第一條 (比照)ノ下(スルニハ)ノ四字ハ衍

○第五號 同年一月二十八日

明治十四年^月第二十三號ヲ以民事裁判權限ノ儀布告候處當分ノ内西郷相川豐岡洲本田邊脇町高山平戸福江巖原天草大曲八戸大島治安裁判所ニ於テ民事ノ訴訟ハ始審裁判所ノ權限ヲ以テ裁判スヘシ

但請求ノ金額及ヒ價額百圓未滿ノ件ニ關スル控訴ハ管轄始審裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○明治十五年一月廿二日

明治十四年^十月第五十三號布告各裁判所位置及管轄區畫表中

松本始審裁判所管内

飯田治安裁判所ノ行中 (西筑摩ノ内)ノ五字ハ衍

鹿兒島始審裁判所管内

鹿兒島治安裁判所ノ行中 (出水ノ内)ノ四字ハ衍

水引 同 出水ノ下(ノ内)ノ二字ハ衍

仙臺始審裁判所管内

古川治安裁判所ノ行中 (遠田)ノ二字ヲ脱ス

石卷 同 (遠田)ノ二字ハ衍

大河原同 (岩代伊達ノ内)ノ六字ハ衍

福島始審裁判所管内

福島治安裁判所ノ行中 伊達ノ下(ノ内)ノ二字ハ衍

○第七號 同年二月一日

治罪法第十九條第二項海上路程ノ猶豫ハ陸路四里ノ割合ヲ以テ一日ヲ加フルモノト定ム

存奉 勅旨布告候事

○第九號 同年二月九日

今般北海道ニ函館札幌根室ノ三縣ヲ被置候處法律規則ノ従前北海道ニ施行セサルモノハ當分ノ内仍ホ従前ノ通タルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○第十四號 同年二月二十五日

舊開拓使官廳ニ於テ取扱來候裁判事務ハ自今司法裁判所ヲ置キ之ヲ管理セシム

但裁判所ノ位置管轄及ヒ權限等追テ布告候迄從前ノ通タルヘシ
右奉 勅旨布告候事

○第十六號 同十五年三月三日

樺戶集治監ノ囚人假出獄免幽罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官
閉ノ者トモ吏ニ於テ裁判ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

右奉 勅旨布告候事

○第十八號 同年三月二十三日

明治十四年^{十月}第五十三號布告裁判所管轄表中左ノ通改定ス

大津始審裁判所管内

小濱治安裁判所ノ全行ヲ刪ル

彦根始審裁判所管内

敦賀治安裁判所ノ全行ヲ刪ル

福井始審裁判所管内ニ左ノ兩行ヲ加フ

敦賀 福井縣 越前 敦賀
若狹 三方

小濱 福井縣 若狹 遠敷 大飯

金澤始審裁判所管内

金澤治安裁判所ノ行中へ越中國礪波ノ五字ヲ加フ

高岡治安裁判所ノ全行ヲ刪ル

富山始審裁判所管内

富山治安裁判所ノ行中射水ノ内以下ノ十二字ヲ刪ル

同裁判所管内へ左ノ一行ヲ加フ

高岡 石川縣 越中 射水

右奉 勅旨布告候事

○第十三號 司法官達 明治十四年三月十八日

內務省 開拓使 警視廳 府縣東京府ヲ除ク

明治八年一月第八號達囚人給與規則ヲ廢シ在監人給與規則別紙ノ通相定メ候條來ル七月一日ヨリ施行致スヘシ此旨相達候事

在監人給與規則

第一條 已決囚ノ獄衣類ハ總テ之ヲ貸與ス

第二條 未決者ノ衣類ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具

ヲ自辨セント請フ者ハ之ヲ許ス貧困ニシテ衣類ヲ自辨スルコト

能ハサル者ハ之ヲ貸與ス

第三條 已決囚ノ獄衣ハ赭色トシ懲治人ノ衣服ハ淺葱色トス

第四條 獄衣ハ總テ筒袖トシ長短二種ニ別ツ男ノ通常服ハ長衣就

役服ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣トス

獄衣ノ外襟ニハ白布ヲ縫着シ之ニ番號ヲ墨書スヘシ

第五條 在監人ニ貸與スル衣類雜具

通常服

一單衣 一裕 一綿入衣 一襦袢

就役服

一單短衣 一裕短衣 一綿入短衣 一股引

雜具

一蒲團 一蚊帳 一莞蓆 一枕 一帶長三尺

一揮長三尺 一手巾 一蓑 一笠

以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ澁濯補綴シテ其用ニ充ルヲ得

第六條 在監人一人一日ノ食糧

一 下白米十分ノ四七合 強キ力業ニ服スル者

一同 五合 輕キ力業ニ服スル者

一同 四合 工役ニ服セサル者及ヒ
滿十歳以上ノ未決者

一同 十歳未滿ノ幼者

一 菜 金壹錢五厘以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得

第七條 工業ニ勉勵熟達シテ食費三倍以上ノ工錢ヲ得ル殊藝ノ者

ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ物品ヲ購ヒ之ヲ給スルコ

トヲ得但一日金三錢ヲ過ルコトヲ得ズ定役ニ服セサル者ニハ其

請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得

但一日金五錢ヲ過ルコトヲ得ズ

第八條 在監人日用ノ雜費辭濯補綴又ハ炊用ノ薪炭ハ一人一日金

壹錢二厘以下トス

○明治十四年十二月二日

所屬代言人規則

第一條 治罪法中所屬代言人ト稱スルハ大審院及ヒ各裁判所々在

ノ地ニ住居スル免許代言人ヲ云

第二條 裁判官ノ職權ヲ以テ選任シタル代言人辯護人ハ正當ノ事

由ヲ證明スルコトヲサレハ之ヲ辭スルコトヲ得ズ

第三條 代言又ハ辯護受任中代言免許滿期ニ至リ引續營業セス又

ハ廢業スト雖モ該事件終結ニ至ルマテ其代言辯護ヲ擔當ス可シ

第四條 代言又ハ辯護受任中ハ他ノ訴訟事件ヲ以テ其任ヲ闕クコ

ト得ズ

第五條 裁判官ノ職權ヲ以テ代言人辯護人ヲ選任シタル場合ニ於

テモ其謝金ハ被告人之ヲ擔當ス可シ
總テ謝金ニ付テハ出訴スルヲ許サス

○丙第四號 明治十四年二月十六日

大審院 諸裁判所 檢事 府縣

司法省明治十年^{月十二}丙第二十二號達ヲ以テ司法省附屬代言人ヲ置
キ候儀相達置候處自今廢止候條此旨相達候事

○第二號 同年十二月二十八日

本年^{月十}第五十三號布告ヲ以テ各裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區畫改正
候ニ付テハ從前布告布達中上等裁判所トアルハ控訴裁判所地方裁
判所トアルハ始審裁判所區裁判所トアルハ治安裁判所ト改マリ候
儀ト心得ヘシ
右布告候事

○第八十一號 同年九月十九日

官省院使廳府縣

明治五年達監獄則及本年三月第十三號達在監人給與規則同^{月七}第六
十四號達在監人雇工錢規則ヲ合セテ別冊ノ通監獄則相定候條此旨
相達候事

但明治十五年一月一日以後施行ノ刑法治罪法ニ關涉スル條件ハ

同日ヨリ施行スヘシ

監獄則目錄

第一編

第一章 汎則

第二章 監署ノ規程

第三章 監獄ノ構造

第二編

第一章 役法 附時限 第二章 工錢

第三章 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受ケタル囚徒押送

第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎

第三編

第一章 給與 第二章 疾病 附死亡 第三章 書信

第四章 接見 第五章 差入品

第四編

第一章 教誨 第二章 賞譽 第三章 懲罰

監獄則

第一編

第一章 汎則

第一條 監獄ヲ分テ左ノ六種ト爲ス

一 留置場 裁判所及ヒ警察署ニ屬スルモノコテ未決者ヲ一時留

置スルノ所トス但時宜ニ由リ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘

留スルコトヲ得

二 監倉 未決者ヲ禁スルノ所トス

三 懲治場 懲治人ヲ懲治スルノ所トス

四 拘留場 拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルノ所トス

五 懲役場 懲役ノ刑及ヒ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ集治スル

ノ所トス

北海道ニ在ル本監ハ徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治ス

第二條 監獄ハ内務卿ノ管轄ニ屬ス但陸海軍ノ管轄ニ屬スルモ

ハ此限ニ在ラス

第三條 集治監ハ内務卿之ヲ直轄ス留置場監倉懲治場拘留場懲

役場ハ警視總監又ハ府知事東京府ヲ除ク縣令之ヲ管理ス

第四條 此獄則ハ特ニ陸海軍ノ獄則ヲ以テ處スヘキモノニ適用スルコトヲ得ス

第五條 内務卿ハ毎年其所屬官吏ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ

警視總監府知事縣令ハ毎年三四次所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ

裁判官檢察官ハ時々其裁判所ニ屬スル監倉ヲ巡閱スヘシ

府縣會議員ハ臨時其人府縣監獄ヲ巡閱スルコトヲ得

第六條 在監人ト稱スルハ未決已決ノ者及ヒ第十九條第三十條ニ記載シタル者ヲ云フ

第七條 在監人ヨリ司獄官吏ノ處置ニ對シ若シ情苦ヲ訴ヘントスルトキハ第五條第一項第二項ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第二章 監署ノ規程

第八條 司獄官吏在監人ヲ管束スルハ一ニ平和ヲ秉リ罰例ニ照シテ犯則者ヲ決責スルノ外恣ニ責罰スルヲ得ス

第九條 典獄看守長ハ日夜不時ニ監房ノ内外ヲ視察シ或ハ物件ヲ

査閲シ其他囚徒ノ傲惰ヲ生シ脱越等ノ事ナカラシムルヲ要ス

第十條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ拘引狀拘留狀收監狀

又ハ處刑宣告書等ノ文書ヲ査閲シテ之ヲ領シ其領收ノ證ヲ引致

シ來タル者ニ交付ス其文書ナシシテ引致セラレタル者ヲ入監ス

ルヲ得ス

未決者ノ中其犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲ヲ禁シ法

庭ニ引致ノ時モ同往セシムルヲ得ス

已決囚ハ第十六條ニ記載シタル差別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

第十一條 入監ノ婦女乳兒三歲未滿ヲ攜帶セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第十二條 新ニ入監スル者アルトキハ名籍ノ機本ニ照シ其要項ヲ詳録シ一小房内ニ於テ通身ヲ搜檢シ利器其他ノ物件ヲ夾帶スルヲ拒クヘシ懲治人ノ監舍ヨ入ルトキモ亦同シ

第十三條 總テ監房ニ入ル、物品ハ典獄一々之ヲ精驗シ其危險ノ處アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ

第十四條 總テ入監人ノ携有スル財貨物件ハ悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄一々證印シテ之ヲ領置シ釋放ノ時還付スヘシ但點檢ノ際隱匿セシ貨物ハ沒收ス若シ其領置ノ貨物ヲ以テ親屬ヲ扶助シ其他正當ノ費用ニ充ント請フトキハ之ヲ許ス

第十五條 在監人書籍ヲ看ント請フトキハ新聞紙及ヒ時事ノ論說

ヲ記載スルモノヲ除キ修身又ハ營業ニ必要ナルモノ、ミテ許スヘシ

第十六條 已決囚ハ各刑名ニ從テ其監房ヲ別異シ又其中ニ就テ左ニ記載シタル者ヲ別異ス

一十六歲未滿ノ者ト滿十六歲以上ノ者

二滿十六歲以上二十歲未滿ニシテ再犯以上ノ者ト同上ノ年齢ニ

シテ初犯ノ者

三初犯ノ者ト再犯以上ノ者

第十七條 要犯疑獄ニ係ル者ヲ拘禁スル未決者ニ於テハ其氏名ヲ呼ハス番號ヲ以テ之ニ換フヘシ但着衣ノ外襟ニ白布ヲ縫着シ其番號ヲ墨書シ監房ヲ出入スル毎ニ皂布ヲ以テ覆面シ當眼ノ所ニ小孔ヲ穿テ其犯者ヲシテ共ニ拘禁ノ身タルヲ窺探スルヲ得サラ

第十八條 放恣不良ノ者ヲ懲治場ニ入ル矯正歸善セシメント其尊屬親ヨリ願出ルトキハ第二十條第一項ノ例ニ照シテ處分スヘシ
矯正歸善ノ爲メ懲治場ニ入ルヘキ者ノ年齢ハ滿八歲以上二十歲以下ヲ限トス

第十九條 懲治人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

- 一 刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ從ヒ懲治場ニ留置スル幼年ノ者及ヒ瘖啞者
- 二 尊屬親ノ情願ニ由テ懲治場ニ入タル者

第二十條 前條第二款ニ記載シタル懲治人ハ戶長ノ證票ヲ具スルニ非サレハ入場ヲ許サス但在場ノ時間ハ六個月ヲ一期トシ二年ニ過ルヲ得ス

一 入場ヲ請ヒ尊屬親ヨリ懲治人ノ行狀ヲ試ル爲メ宅舎ニ帶往

ニ其ソト請フトキハ其情狀ニ由リ之ヲ許スヘシ

第二十一條 懲治人ハ左ノ年齢ニ從ヒ其居房ヲ別異ス

一 十六歲未滿ノ者ト滿十六歲以上ノ者

二 滿十六歲以上二十歲未滿ニシテ再ヒ懲治場ニ入シ者ト同上ノ

年齢ニシテ初テ入場スル者

第二十二條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ處刑ノ宣告書

其他必用ノ文書及ヒ領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ其發遣ノ途

中ニ在テノ行狀ハ押送官吏之ヲ記述シテ典獄ニ知會スヘシ

在監人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ戒具ヲ用ヒ男ト女ヲ

別ツヘシ但懲治人ハ戒具ヲ用ヒス

第二十三條 典獄ハ看守長及ヒ看守ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ錄

サシメ賞罰ヲ行フノ考據トナスヘシ

第二十四條 賞表ヲ與ヘタルトキハ賞譽簿ニ其氏名及ヒ賞詞ヲ記載シ覆奪シタルトキハ之ヲ刪除スヘシ但其賞罰ヲ行ヒタル旨ヲ囚徒ニ示スハ第二十六條ノ例ニ依ルヘシ

第二十五條 特赦アリタルトキハ速ニ其旨ヲ内務卿ニ申報スヘシ

第二十六條 特赦ヲ受タル者アルトキハ免役日若クハ日曜日ノ午後

後ニ在テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ聽カシメ仍ホ之ヲ揭示スヘシ

第二十七條 假出獄ヲ許サレタル者ニハ其證票ヲ與ヘ警察遞傳ヲ以テ其居住セントスル地ニ押送スヘシ

監署ニ領置セシ金錢ハ出獄者ニ携帶セシメス其金員ヲ録シテ其

ニ其地ノ警察官治罪法第六十條第二項ニ記載シタル官吏ニ送致スヘシ

第二十八條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其刑期間ハ典獄

ニ於テ營業ノ方法ヲ指示シ其來署ヲ要スルトキハ召喚スルコトヲ得

第二十九條 在監人中能ク獄則ヲ守ル者ヲ撰テ傳告者誘工者トナス傳告者ハ官吏ノ命令ヲ在監人ニ傳ヘシメ誘工者ハ工場ニ在テ服役者ヲ勸誘セシム但傳告者誘工者ハ滿六個月以上其用務ヲ繼續セシムルヲ得ス

傳告者及ヒ誘工者ハ私ニ在監人ヲ使役シ若クハ凌辱スルノ所爲アルヲ許サス

第三十條 刑期滿限ノ後頼ルヘキ所ナキ者ハ其情狀ニ由リ監獄中ノ別房ニ留メ生業ヲ營マシムルヲ得

第三十一條 刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過ヘカラス

第三十二條 死刑ノ執行ハ午前第十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ
其遺體ニ死相ヲ驗シタル後仍ホ二分時ヲ過サレハ埋葬若クハ下付スルヲ得ス

第三十三條 刑死者又ハ死亡者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ本籍ノ戸長及ヒ近地ノ親屬若クハ故舊ニ通知スヘシ其監署ニ領置シタル貨物ハ親屬ニ下付ス若シ親屬ナキトキハ遺體ヲ領取シタル故舊ニ之ヲ下付ス但死者ノ身ニ纏ヒタル衣服ハ此限ニ在ラス

警視總監達

○第三十九號 明治十五年四月五日

巡查本部 警察署 消防本署 監獄署

各署並各巡查屯所會計ニ關スル帳簿及ヒ金銀物品出納之儀自今書記局會計部ヨリ臨時派出検査可致尤検査上要用ト認ムル書類ハ一々之ヲ點檢シ其主務者ニ對シ辨明ヲ求ムル儀モ有之候條此旨相達候事

○第四十號 同年四月八日

警察署

監視ヲ付ス可キモノ他管下ハ勿論管内ト雖モ其住所壹里半以外ノ者監獄署ヨリ護送スルキハ刑法附則第二十四條ニ依リ該地ノ警察署へ送致スヘシ此旨相達候事

○第四十三號 同年四月十一日

警察署

警察正副使ノ内一名ノ署又ハ二名以上アルモ事故アリテ欠勤シ一

名トナル場合ニ於テハ午後第三時後適宜退散候儀ハ不苦候條此旨
爲心得相達候事

○第四十五號 同十五年四月十四日

巡查本部 警察署

清國人違註犯處分方ノ儀今般外務卿達ノ旨有之ニ付明治十二年一
月第五號達取消候條自今該犯者有之節ハ總テ佗ノ條約濟各國人民
同様可取扱此旨相達候事

○第四十六號 同年四月廿一日

巡查本部 警察署 消防本署

各署並巡查屯所ニ於テ會計ニ關スル帳簿別冊書式ニ照準調製可致
且財産ハ壹周年ヲ四期トシ每期月末現在高及増減事由詳細記載
翌月十日限リ書記局會計部へ報告可致尤モ簿冊調製ノ儀ハ來ル五

月一日ヨリ施行スヘシ此旨相達候事

(別冊書式畧ス)

○第四十七號 同年四月廿二日

局部署

明治十四年十二月第百三十三號達犯罪取扱心得第廿三條左之通改
正候條此旨相達候事

令狀執行ハ專ラ所屬巡查ヲ以テスヘシト雖モ時宜ニ依リ各屯所
諸巡查ニ命スルコトアルヘシ

但其効力ハ警視廳管内ニ止ル

○第五十號 同年四月廿六日

警察署

飲食物ノ中毒者有之節第一局へ通報之儀明治十四年第百三十五號

ヲ以テ達置候處其毒物之成分不分明ナルト否ト相問ハス可成現品
相添同局ニ通報スヘシ此旨相達候事

○但中毒死ニ至ラザル者モ本文同様心得ヘシ

○甲第三號同十五年四月十三日

明治十四年甲第六十號布達違警罪目左ノ通改定追加候條此旨
布達候事

改定

八強テ合方ヲ申掛テ若クハ物品ヲ押賣シ其他種々ノ所爲ヲ以テ他

ニ妨テ爲シタル者

十八紙屑拾ヒノ者官ノ檢印スル名札ヲ貸借シ又ハ其記名ヲ變更シ

若クハ名札ヲ屑籠ニ表出セサル者

追加

十九旅人宿ニ於テ郷貫氏名ヲ詐稱シタル者
二十官許ヲ得ズシテ神興ノ巡行佛刹ノ開帳ヲ爲シ其他山車ヲ牽キ
又ハ手踊ノ興行ヲ爲シタル者

○告第六號 同年四月十五日

銀行又ハ諸會社又ハ町村協議或ハ人民一己ヨリ其費用ヲ納メ巡
査ノ派出ヲ請願スル者ハ左ノ規則ニ依リ可願出此旨告示候事

但從前許可候者モ本文ニ準シ更ニ可願出事

巡查派出請願規則

第一條 巡查ノ派出ハ左ノ條項ニ依リ警視廳へ出願シ其一ヶ月以

内ニ於テハ該地ノ巡查屯所へ出願スヘシ

第七條 旅費日當ヲ要スル場合(片道三里以上等)ニハ尙ホ旅費定則

ニ從ヒ相當ノ費額ヲ納ムヘシ

○品川巡查屯所長高山節見伺指令 同十五年三月七日

巡查罪犯ヲ告發シ其事件ニ付裁判所ヨリ證人トシテ召喚ヲ受ケ
出頭シタル者ハ治罪法第九十條ニヨリ旅費日當ヲ請求スルヲ
得ル儀ト相心得可然哉目下差當候儀ニ付至急何分ノ御指揮相成
度此段相伺候也

(指令) 伺之趣旅費定則ニ照シ當廳ヨリ支給相成候儀ト心得ヘシ

但其都度請取方書記會計部へ申出ヘシ

○甲第八號 警視總監事達 同年十月十九日

街路取締規則左之通改定來ル十一月一日ヨリ施行候條此旨布達候
事 但從前ノ布達等本文ト抵觸スルモノハ廢止ト可心得事

街路取締規則

第一條 街路ニ建物ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シ其他標旗招牌物干等ヲ

建設或ハ突出スヘカラス但シ釣看板ニ限リ道敷へ貳尺マテ掲出
スルモ妨ケナシト雖モ地盤ヲ距ル高サ一丈以上ニシテ最モ堅牢
ノ裝置ヲ爲スヘシ

第二條 居住者其家屋前ノ道敷へ商品薪炭荷車其他ノ物件ヲ排列
突出スヘカラス但シ標燈及ヒ日除ハ道敷へ一尺ヲ限リ出スヲ得
ヘシ

第三條 左ノ諸件ニ係ルモノハ其場ノ圖面ヲ添へ警視廳へ願出允
許ヲ請フヘシ

一路傍ニ床店葎簀張ヲ設ケ又ハ路上ニ街燈ヲ建テントスル者

ニ神佛開扉等廣告ノ爲メ路傍ニ建札ヲ爲サントスル者

第四條 左ノ諸件ニ係ル者ハ其場ノ圖面ヲ添へ所轄警察署へ願出
允許ヲ請フヘシ

防圍ヲ設クヘシ

第十二條 諸車及ヒ牛馬ヲ牽キ又ハ荷物ヲ負擔シテ一時路上ニ休憩スル者ハ路傍ニ避ケテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十三條 諸車ヲ路上ニ置キ又ハ牛馬其他ノ物件ヲ道路ニ横タヘ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス但シ建物木石等ヲ運搬中不得止一時街路ニ停メ置クキハ路傍ニ片寄セ第七條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四條 路上ニ佇立シ又ハ小兒七歳未満ヲ云フヲ放歩セシメ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十五條 路上ニ於テ軍談輕業其他人寄セテ爲シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十六條 路上ニ於テ紙鳶ヲ揚ケ又ハ獨樂羽子手毬等ヲ翫弄シ其他都テ遊戯ヲ爲シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十七條 露店行商及ヒ縁日商等食物其他ノ商品ヲ路上ニ羅列シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十八條 路上ノ樹木ヲ折伐シ又ハ便所街燈等ヲ破毀消滅シ溝渠下水ヲ毀損壅塞スヘカラス

第十九條 道路橋梁及ヒ其他ノ場所ニ於テ榜示シタル制札指道標ノ類ヲ毀棄汚損スヘカラス

第二十條 通行禁止ノ榜示アル場所ヲ通行スヘカラス

第二十一條 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシムヘカラス

第二十二條 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥スヘカラス

第二十三條 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チ若クハ路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘯シ又ハ驚逸セシムヘカラス

第二十四條 人道車馬道ノ區別アル場所ニ在ツテ諸車牛馬ヲ人道

ニ率入レ又ハ猥リニ車馬道ヲ通行スヘカラス但シ人道ニ於テ小兒車ヲ押シ及ヒ所有者諸車牛馬ヲ出入スルハ此限リニアラス
第二十五條 鐵道ノ馬車軌線ニ瓦礫等ヲ置キ行進ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第二十六條 街路ノ掃除ハ兩側居住人(官署及官署用地ノ類ハ該官署)ニ於テ分擔シ其片側ナルハ一方ノ居住人ニ於テ地先八間ヲ限リ負擔スヘシ但シ空屋空地ノ周圍ハ其所有主ノ負擔トス

第二十七條 橋上車馬道其他負擔者ナキ道路ノ掃除ハ區町村ニ於テ負擔スヘシ

第二十八條 掃除負擔ノ場所ハ常日勉テ清潔ニ掃除シ犬猫等ノ死屍ハ區町村ニ於テ取片付クヘシ

第二十九條 宅前下水ノ浚渫ハ該地主(官署及官署用地ノ類ハ該官

署)ニ於テ負擔シ其組合持ナルハ當番者ヲ定メテ之レヲ負擔スヘシ但シ大下水及ヒ横切下水ハ區町村ニ於テ負擔スヘシ

第三十條 下水ハ毎年兩度(三四月ノ間十一月ノ間)浚渫スヘシ尤モ塵芥等疏通ヲ壅塞スルキハ臨時浚渫スヘシ

第三十一條 下水浚へ揚ケノ淤泥塵芥等ヲ路上ニ布キ又ハ路傍ニ置クヘカラス

第三十二條 炎天及ヒ風日コハ時々路上ニ水ヲ灑クヘシ但シ十二月一日ヨリ二月廿八日迄ハ午前第九時前午後第三時後ハ水ヲ洒クヘカラス

第三十三條 溝渠等ノ汚水其他汚穢物ヲ洗滌シタル水ヲ路上ニ洒注スヘカラス

第三十四條 瓦礫塵芥禽獸ノ死屍及ヒ汚穢物ヲ街路又ハ溝渠下水

ニ投棄スヘカラス但シ冰雪ハ河海下水等ニ投棄シ止ムヲ得ス一時路傍ニ堆積スルニ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十五條 街路ニ於テ便所コアラサル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ幼兒ニ大小便ヲ爲サシムヘカラス

第三十六條 此規則ハ郡ノ公道及ヒ公衆ノ通用スヘキ都テノ私設道路ニモ亦適用スルモノトス

第三十七條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セララルヘシ

現行犯

○第一條

第二百二條 司法警察官及ヒ巡查其職務ヲ行フニ當リ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ令狀又ハ命令ヲ待スシテ被告人ヲ逮捕ス可シ

違警罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ被告人ノ氏名住所ヲ問ヒ之ヲ違警罪裁判所檢察官ニ告發ス可シ其氏名住所分明ナラス又ハ逃亡ノ恐アル者ハ違警罪裁判所ニ引致スルコトヲ得

〔對照〕 法^{治罪} 第一百條 現行犯トハ現ニ行ヒ又ハ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ヲ云フ

〔對照〕 法^{治罪} 第一百一條 重罪輕罪ニ付左ノ場合ハ現行犯ニ準ス
一犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セララル、時

二兇器贓物其他犯人ト思料ス可キ物件ヲ携帯シタル時
三家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯人ト思料ス可

キ者ヲ逮捕スル爲メ戸主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求ムル時

〔對照〕 明治十四年九月二十日 治罪法第一百一條ニ準現行犯ノ場合列
記有之候處其舉動犯人ト思料スヘキ者アル時ハ當分ノ内現行犯ニ
準シ處分スルヲ得

〔對照〕 明治十四年八月廿八日 本年十月第四十八號布告左ノ通改正
ス

違警罪ノ儀ハ本年第三十六號布告ニ據リ明治十五年一月一日ヨ
リ治安裁判所ニ於テ裁判スヘキ處當分ノ内府縣警察署及ヒ其分
署ニ於テ裁判スヘシ

右奉 勅旨布告候事

〔對照〕 明治十四年十二月廿八日 違警罪處分手續

第四條 違警罪ノ現行犯アル場合ハ治罪法第一百二條ニ依リ其氏名
住所等申立ルモ確認シ難キ者ハ所管警察署ヘ引致スルヲ得

第五條 其軍人軍屬ニ在テハ直ニ本人ヲ憲兵屯所分屯所ヘ引致シ
其旨警察使ニ申告スヘシ

〔對照〕 明治十五年二月九日 巡査 各地方ノ人民出京ノ當日未タ宿所
定マラサル内違警罪ヲ犯シ候者其氏名并郷里ノ住所等分明ナルハ
ハ放還可致ハ當然ニ候得共違警罪處分ノ儀ハ昨十四年九月第四十
四號ヲ以テ特ニ御布告ノ趣モ有之候事ユヘ前件ノ場合ノ者モ亦正
則ニ據ラス東京ニ宿所定マラサル點ヲ以テ直ニ該警察署ヘ引致爲
致可然哉

二月十五日指令

住所姓名確認スヘキ證憑アルハ治罪法第二十一條ニ依リ證憑ナキハ違警罪處分手續第四條ニ依ル義ト心得ヘシ

〔對照〕 明治十四年三月十一日 憲兵條例

第八條 巡察中若シ巡查ニテ軍人ノ非違ヲ捕フル者アルニ遇ハ、憲兵ハ速ニ其軍人ヲ受取り其處分ヲ爲ス可シ又憲兵ニテ常人ノ違式註違ヲ發見シタル時ハ拘引シテ是ヲ巡查ニ引渡スヘシ
第九條 巡察中現行犯罪アルニ遇ハ、其何人タルヲ論セス直チニ之ヲ逮捕スルヲ得

但シ違式註違ハ此限ニ在ラス

〔對照〕 明治十四年十一月二日 憲兵條例ニ關スル罪犯取扱方當分左

ノ通相心得ヘシ此旨相達候事

第一條 軍人軍屬ノ違警犯ヲ取押ヘ若クハ重輕罪ノ現行犯ヲ逮捕

シタルキハ一應職名隊號及ヒ住所姓名ヲ尋問シ證據物件アレハ之ヲ添ヘ其犯狀ヲ陳ヘ直ニ巡察ノ憲兵若クハ憲兵屯所分屯所ヘ引渡シ名刺ヲ取替ハシ罪犯授受ノ證トナシ速ニ屯所長ヲ經テ證明書ヲ該憲兵屯所分屯所ヘ送付スヘシ

第二條 常人ノ違警犯若クハ重輕罪ノ現行犯ヲ憲兵ヨリ受取ルキモ亦前條ニ準シ一應犯狀等ヲ聽取シ且名刺ヲ取替ハスヘシ但罪犯證明書ハ追テ憲兵ヨリ廻付スルモノトス

第三條 都テ憲兵ヨリ罪犯ヲ受取リタルキハ直ニ警察署ヘ引致シ其旨屯所若クハ巡廻ノ部長ヘ具陳スヘシ但巡查ヨリ罪犯ヲ憲兵ヘ引渡シタルキモ亦同シク具陳スヘシ

第五條 軍人軍屬ト常人トノ共犯 違警罪ニ係ルモノアルキハ共ニ警察署ヘ引渡スヘシ

〔對照〕 刑法第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔參照〕 明治九年四月廿四日 司法警察假規則

第十二條 現ニ行フ罪犯及ヒ現ニ行ヒ終リタル罪犯ヲ現行犯ト云フ衆人指名シテ其犯主タルヲ其傳シ若クハ兇器文書其他犯罪ノ證憑タルヘキ物ヲ携帶シ犯人ト思料スヘキ時ハ犯罪ヨリ時日ヲ過タリト云モ其亦現行犯ニ準ス

第十七條 現行犯ノ證跡アルニ於テハ被告人ヲ拿捕スルヲ得而シテ直ニ之ヲ糾問シ口書ヲ作り被告人ヲ放押若クハ實印若クハ押印セシム被告人逃走シタル時ハ司法警察官直ニ巡查ニ令シテ追捕セシム

〔參照〕 日千八百八十八年十一月十七日 佛蘭西治罪法

第二十五條 檢事又ハ其他司法警察ノ官吏ハ其職務ヲ行フニ當リ直ニ公衆ノ兵力ヲ借ント求ムルヲ得可シ

第四十條 施體又ハ加辱ノ刑ニ處ス可キ罪ヲ現ニ行フタル時被告人ニ犯罪ノ重キ徵憑アリテ且被告人其場ニアルニ於テハ檢事之ヲ召捕ヘシム可シ

若シ被告人其場ニアラサル時ハ檢事之ヲ引出サシムル爲メ引出狀ヲ出ス可シ

犯罪ノ申立アルシミニテハ住所アル被告人ニ對シ其引出狀ヲ出スニ足ル可キ證アリトセス

檢事ハ被告人ヲ引出シ次第即時ニ之ヲ問糾ス可シ 此等ノ諸事ハ通判ノ役ノ爲ス可キ所ナレトモ現行犯罪ノ時ハ檢事之ヲ行フヲ得可シ

第四十一條 現ニ行フ所ノ罪犯又ハ即今行ヒ終リタル罪犯ヲ現行ノ罪犯ト云フ

又衆人ニ罪犯ヲ高聲ニ呼ヒ追ハル、時又ハ被告人犯罪ノ時ヨリ間モナク兵器々具書類物件等ヲ携ヘタルニ因リ之ヲ其罪犯ノ主又ハ從ナリト思料ス可キ時ハ亦現行ノ罪犯ナリトス

第四十六條 現行罪犯ノ場合ニ非スト雖モ家屋内ニ於テ重罪又ハ輕罪ヲ行フタルニ因リ其家長ヨリ檢事ニ其罪犯ノ證ヲ立ツ可キヲ求メタル時ハ檢事現行罪犯ノ場合ニ付キ前數條ニ定メタル權ヲ行フヲ得可シ

○第二條

第一百五條 何人ニ限ラス重罪輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ直チニ被告人ヲ逮捕スルヲ得

〔對照〕 治罪 第一百六條 前條ノ場合ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ若シ引致スルヲ得サル時ハ自己ノ氏名職業住所及ヒ其逮捕ノ事由ヲ陳述シ假ニ之ヲ巡查ニ引渡スヲ得

被告人ヲ巡查ニ引渡シタル時ハ速ニ告訴又ハ告發ヲ爲ス可シ

被告人又ハ巡查ハ逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ共ニ官署ニ至ルヲ求ムルヲ得但シ逮捕ヲ爲シタル者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其求ヲ拒ムヲ得ス

〔對照〕 刑 第二百八十三條 裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

〔參照〕 日千八百八十年十一月十七日布告 佛蘭西治罪法

第六條 公ケノ兵力ヲ預カル官吏又ハ其他何レノ人タリニ施體又ハ加辱ノ刑ニ處ゼラル可キ罪ヲ現ニ行フ犯人又ハ衆人ニ罪犯ヲ高聲ニ呼ビ追ハルル犯人又ハ其他現行ノ罪犯ニ等シキ摸樣アル犯人ヲ召捕ヘテ檢事ノ面前ニ連行ク可シ但シ此場合ニ於テハ別段引出狀アルトシテ要々トセス

○第三條

第一百三條 巡査被告人ヲ逮捕シタル時ハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ

其被告人ヲ受取リタル司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付テノ調書ヲ作ル可シ

〔對照〕 法治罪 第一百四條 司法警察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リ

タル時ハ假ニ被告人ノ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲ス可シ

〔對照〕 刑 第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セシメテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

〔對照〕 明治十四年三月十一日號達 憲兵條例

第五十四條 東京府下ノ憲兵ハ常人ノ現行犯罪違式註違ヲ除クヲ逮捕シタル時ハ直チニ警察署若クハ巡行人巡査ニ引渡ス可シ

但軍人ノ現行犯罪ハ第十一條ノ例ニ據ル

〔參照〕 日千八百八十年十一月十七日布告 佛蘭西治罪法

第四十二條 前數條ニ循ヒ檢事ノ記ス可キ調書ハ其犯罪ノ邑ノ選卒長又ハ邑長又ハ其補佐又ハ其邑内ニ住スル者二人ノ面前ニテ之

ヲ記シ且此等ノ者其調書ニ姓名ヲ手署ス可シ

令狀

○第四條

第三百三十二條 勾引狀勾留狀收監狀ハ日本全國ニ於テ之ヲ執行ス但時宜ニ因リ正本數通ヲ作り巡査數人ニ分付スルヲ可シ前項ノ令狀ヲ執行スルニハ被告人ニ正本ヲ示シ其謄本ヲ下付ス可シ此場合ニ於テハ第二十三條第二項第四項ノ規則ニ從フ

〔對照〕 治罪 第三百三十條 總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名職業住所ヲ記載ス可シ但召喚狀ヲ除クノ外其氏名分明ナラサル時ハ容貌體格等ヲ明示ス可シ ○(體格參照人體略圖卷末ニ付ス) 又令狀ニハ之ヲ發スルノ年月日時ヲ記載シ豫審判事及ヒ書記署名捺印ス可シ

勾引狀勾留狀收監狀ハ巡査ヲシテ之ヲ執行セシム

〔對照〕 治罪 第二十三條

二項 送達人ハ之ヲ受取リタル者ヲシテ其二通ニ署名捺印セシム若シ署名捺印スルヲ能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

四項 送達人書類ヲ受取リタル者ノ氏名場所及ヒ日時ヲ其二通ニ記載ス可シ

〔對照〕 明治十四年九月二十日 治罪法第二百五條第一項但書ニ司法警察官ハ令狀ヲ發スルヲ得サル旨記載有之候ヘトモ當分ノ内現行犯ノ場合ニ限リ令狀ヲ發シ苦シカラス 右布告候事

〔對照〕 明治十四年十二月廿三日 令狀

第二十二條 警察使ハ治罪法第二百五條ノ場合ニ於テハ明治十四

年第四十六號公布ニ依リ令狀ヲ發スルコトヲ得ヘシト雖モ拘引狀拘留狀ノ二類ニ限ル者トス

但テ拘引狀ハ其被告人ノ氏名分知シタル時ニ限ル故ニ治罪法第百三十一條ノ氏名分明ナラサル時容貌體格等ヲ以テ發スル拘引狀ハ警察使ニ於テ發スルヲ得ス

第二十三條 令狀執行ハ其所屬巡查ヲ以テスルニ止ル故ニ治罪法第百三十二條ノ効力アルモノニアラス

第二十四條 令狀ヲ以テ被告人ヲ引致シ及ヒ拘留狀ヲ發セシ時ハ其正本ヲ檢證調書ニ附スヘシ

第二十五條 警察使ノ令狀ハ急速ニ要スル場合ニ限リ發付スヘキモノニ付若シ其時被告人ノ蹤跡ヲ得サレハ無効ニ屬ス故ニ治罪法第百三十八條ノ程式ヲ踐ムコトヲ要セス

〔對照〕 明治十四年三月廿八日新法實施後ハ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル刑法第六十二條ノ令狀ハ總テ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ治安裁判所檢事ヨリ發スル儀ト可心得此旨相達候事

〔對照〕 明治十四年三月十一日憲兵條例

第十六條 憲兵ハ令書ヲ有スルニ非サレテ漫ク其人ヲ逮捕シ若シハ人家ニ侵入シ若クハ物件ヲ差押ルコトヲ得ス

但テ現行犯及ヒ現行犯ニ準スル場合ハ此限ニ在ラス

〔參照〕 明治十八年十一月十七日佛蘭西治罪法

第九十八條 呼出狀引出狀禁錮狀收監狀ハ佛蘭西全國中何レノ地ニ於テ之ヲ執行ス可シ

若シ被告人禁錮狀又ハ收監狀ヲ出シタル官吏ノ管轄地外ニ在ル時ハ之ヲ治安裁判役又ハ其輔役又其アラスル時ハ邑長又ハ其輔佐又

ハ選卒長ノ面前ニ引出シ此等ノ官吏其禁錮狀又ハ收監狀ニ檢印ス可シ但シ此等ノ官吏ハ其禁錮狀又ハ收監狀ノ執行ヲ妨ク可カラス
第九十五條 呼出狀引出狀禁錮狀ハ之ヲ出シタル者姓名ヲ手署シテ印ヲ押ス可シ
此等ノ書ニハ被告人ノ姓名住所職業身分年齢等ヲカメテ詳細ニ記ス可シ

○第五條

第二百十條 豫審判事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサル時ハ勾引狀ヲ發スルヲ得

〔對照〕 治罪 第二百一一條 豫審判事ハ左ノ場合ニ於テ直ニ勾引狀ヲ發スルヲ得
一 被告人定リタル住所アラサル時

二 被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡スルノ恐アル時

三 被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケントスルノ恐アル時

〔對照〕 治罪 第二百二十二條 勾引狀執行ノ命ヲ受ケタル者ハ其令狀ヲ發シタル豫審判事ニ被告人ヲ引致ス可シ

勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問シ可シ若シ其時間ヲ經過スル時ハ勾留狀ヲ發スルニ非サレハ當然之ヲ釋放ス可シ

〔對照〕 明治十四年十月八日太 治罪法中豫審判事勾引狀ヲ發シ勾引セシメタル被告人ハ時宜ニ依リ其訊問期限四十八時間ニ在ル夜間ニ限リ裁判所又ハ最寄警察署留置場ニ入置クヘシ此旨布告候事
〔對照〕 刑 第三百三十九條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ

行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシメタル者亦同シ

〔參照〕 明治九年四月二十四日 糾問判事職務假規則

第九條 糾問判事ハ輕重罪ヲ論セス被告人ヲ呼出シ若クハ拘引セシメ又ハ拘留スルヲ得

但シ拘引ハ巡查若クハ等外吏ニシテ之ヲ行ハシム

第十條 糾問判事ハ糾問ノ間時宜ニ依リ假リニ勾留ヲ解クヲ得

但シ保管人ヲシテ保管誓約書ヲ出サシムルヲ要ス
〔參照〕 千八百六十五年 佛蘭西治罪法

第九十一條 重罪及ヒ輕罪ヲ論セテ下吟味掛リ裁判役ハ被告人ニ

呼出狀ノミヲ送ル可シ但シ問糾ノ上ハ呼出狀ヲ其他ノ相當ノ書出引

狀禁錮狀收ト易フルヲ得可シ

若シ被告人呼出狀ニ從ヒ出席セサル時ハ下吟味掛リ裁判役其被告人ニ對シ引出狀ヲ出ス可シ

○第六條

第二百二十六條 勾留狀ハ被告人逃亡シ又ハ第二百二十三條ノ場合ヲ除クノ外被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料スルニ非サレハ之ヲ發スルヲ得ス

〔對照〕 治罪法 第二百二十七條 豫審判事ハ勾留狀ヲ執行シタルヨリ十日ヲ過クル時ハ之ヲ收監狀ニ換ヘ若クハ第二百十九條ノ規則ニ從ヒ被告人ノ責付ス可シ

〔對照〕 治罪 第二百二十三條 勾引狀ヲ發シタル前被告人既ニ豫審判事ノ管轄地外ニ在ル時ハ被告人ヨリ其所在ノ地ノ豫審判事ノ取調ヲ求ムルコトヲ得其求ヲ受ケタル豫審判事ハ假ニ被告人ヲ勾留シ速ニ勾引狀ヲ發シタル豫審判事ニ其旨ヲ通知ス可シ

〔對照〕 刑 第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ヲキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔參照〕 明治九年四月二十四日 司法省第四十七號達 糺問判事職務假規則

第十一條 若シ被告人己ノ管外ニ在ル時ハ其地ノ糺問判事ニ通牒シ糺問ヲ求ムルコトヲ得

〔參照〕 千八百六十五年 佛蘭西治罪法

第九十四條 被告人ヲ問糺シタル後又ハ被告人逃亡シタル時其罪

禁錮以上ノ刑ニ處ス可キモノタルニ於テハ下吟味掛リ裁判役其被告人ニ對シ禁錮狀又ハ收監狀ヲ出スコトヲ得可シ

下吟味掛リ裁判役ハ檢事ノ説ヲ聽キタル上ニ非サレハ收監狀ヲ出ス可カラズ

下吟味掛リ裁判役ハ其吟味ヲ爲ス間被告人ノ申立ラレタル罪犯ノ種類如何ナルヲ問ハス檢事ノ申立ニ從ヒ犯人ヲシテ何時ニ於テモ言附次第吟味ノ席ニ出テ且裁判言渡ヲ執行フ爲メ出席ス可キノ盟約ヲ爲サシメタル上禁錮狀又ハ收監狀ノ効ヲ假リニ解除スルコトヲ得可シ

其解除ノ言渡ハ故障ヲ述フ可カラズ

第一百條 然レモ引出狀ヲ出シタルヨリ二日ノ後ニ在リ被告人其引出狀ヲ出シタル官吏ノ管轄外ニシテ其官吏所在ノ地ヨリ五ミリ

ヤメトトル以上ノ地ニアル時ハ被告人必スシモ其引出狀ニ從ヒ之ヲ出シタル官吏ノ面前ニ至ルニ及ハス但シ此場合ニ於テハ被告人其所在ノ地ノ檢事ノ面前ニ出ツ可シ其官吏ハ禁錮狀ヲ出シテ其被告人ヲ輕罪裁判所附ノ留置場ニ入ル可シ

然レモ引出狀ヲ出シタル日數ヲ經テ被告如何ニ遠隔ノ地ニ至リタルトハ問ハズ被告人罪犯ノ主又ハ從タル可シト思料ス可キ器具書類物件ヲ所持シタル時ハ引出狀ニ記シタル如ク執行フ可シ即チ之ヲ出シタル官吏ノ

第七條

第二百二十八條 收監狀ハ既ニ取掛リタル豫審ノ手續ヲ檢事ニ通知シ且其意見ヲ聽キタル後ニ非サレハ之ヲ發スルヲ得ス

〔對照〕治罪法 第二百二十九條 收監狀ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

- 一 被告事件ノ概略及ニ加重減輕ノ模様アル時ハ其概略
- 二 其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條
- 三 檢察官ノ意見ヲ聽キタルヲ

〔對照〕治罪法 第三百三十七條 勾留狀又ハ收監狀ヲ受ケタル被告人ハ速ニ其令狀ニ記載シタル監倉ニ引致ス可シ若シ其監倉ニ引致スルコト能ハサル時ハ假ニ最近ノ監倉ニ引致スルヲ得

何レノ場合ニ於テモ監倉長ハ令狀ヲ檢閲シテ被告人ヲ受取り其證書ヲ渡ス可シ

〔對照〕刑 第四百十八條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ亦前條ノ例ニ同シ

〔對照〕刑 第四百十九條 看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔參照〕 日千八百八十年十一月十七日布告 佛蘭西治罪法

第九十六條 收監狀ニ付テモ亦前條ニ記シタル如キ法式ヲ用ヒ且之ヲ出スニ付テノ罪犯ノ大略ト之ヲ重罪又ハ輕罪ト爲ス法律書ノ引抄トシ記ス可シ

第一百七條 輕罪裁判所附ノ留置場ニ於テハ被告人ノ禁錮狀ヲ見タル上ニテ其被告人ヲ受取リ其留置場ノ監守人禁錮狀ノ執行ヲ任セラレタル使吏又ハ公ケノ兵力ヲ預カル官吏ニ被告人ヲ受取リタル證書ヲ渡ス可シ

○第八條

第三百三十三條 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查ハ被告人其家宅若クハ

他人ノ家宅ニ潛匿シタルト思料シタル時ハ其地ノ戸長又其差支アル時ハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求メ搜索ス可シ

巡查ハ被告人ヲ發見シタルト否トニ拘ハラズ搜索調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

家宅搜索ハ日出前日没後之ヲ爲スヲ得ス

〔對照〕 治罪法 第三百三十八條 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查ハ之ヲ執行シタルト又ハ執行スルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ令狀ノ正本ニ記載ス可シ

巡查ハ令狀執行ニ關スル書類ヲ書記局ニ差出シ書記ハ其受取證書ヲ渡ス可シ

〔對照〕 明治十四年九月二十日 治罪法第三百三十三條第三項ニ家宅搜索ノ制限有之候ヘトモ芝居人寄席飲食店湯屋遊船宿待合茶屋ノ類

ハ日出前日没後ト雖モ其營業ヲ爲ス時間又旅籠屋賃座敷ハ日出前日没後ニ拘ハラス搜索致シ苦シカラズト右布告候事
〔對照〕刑第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行
迄本又ハ他ノ官吏ニ公布施行ヲ妨害シタル者ハ三月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔參照〕刑第八百八十年十一月十七日決定同月廿七日布告 佛蘭西治罪法

第一百五條 若シ被告人ニ對シ引出狀ヲ出シタル時其被告人ニ在ラズルニ於テハ其引出狀ヲ被告人住所ノ邑長又ハ其輔佐又ハ選卒長ニ示ス可シ
此等ノ官吏ハ其引出狀ノ正本ニ檢印ス可シ
第一百八條 禁錮狀又ハ收監狀ヲ執行ス任ヲ受ケタル官吏ハ被告人ノ逃亡ヲ防クニ足ル可キ人數ヲ同伴ス可シ

其人數ハ禁錮狀又ハ收監狀ヲ執行フ可キ場所ニ最近ナル地ヨリ之ヲ連行ス可シ但シ其兵ノ指揮官ニ禁錮狀又ハ收監狀ニ記シタル如ク其求メテ受ケタル時直ニ其人數ヲ進行セシム可シ第九十九條見合
第九條
第三百三十四條 豫審判事ハ被告人他ノ管轄地内ニ潜匿シタルヲ知ル又ハ出潛匿シタルト思料シタル場合ニ於テ被告事件急速ヲ要スル時ニ該管轄地内ニ於テ巡査ニ命狀ヲ帶行セシムルヲ得ル
巡査ニ被告ノ所在ニ地ノ豫審判事檢事又ハ司法警察官ニ命狀ヲ示シテ即時該管轄地内ニ巡査スルヲ得ル
〔對照〕六治罪 第三百三十六條 陸海軍在營ノ軍人軍屬ニ對シ命狀ヲ發スル時ハ所屬長官ニ命狀ヲ示ス可シ長官ハ已ムヲ得サル差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速ニ命狀ニ應ゼシム可シ其行軍ノ際亦

同

〔對照〕 明治十五年三月八日 警視廳第二十八號達

第廿六條 豫審判事ヨリ發スル令狀ヲ巡查帶行シ他管下ニ出ル時ハ治罪法第三百三十四條ニ依リ被告人所在ノ地ノ檢事豫審判事司法警察官ニ令狀ヲ示シ直ニ執行ヲ求ムヘシ

第廿七條 前條令狀ヲ帶行シ被告人所在ノ地ニ至ル途上等ニ被告人ニ出會シ猶豫スヘカラサル場合ハ令狀ヲ示シ假ニ第廿六條ニ記載シタル官吏ノ面前ニ引致シ其執行ヲ求ムルヲ得

第廿八條 前條令狀ヲ執行セシキハ執行巡查ト帶行巡查ト共ニ署名捺印スヘシ

第廿九條 他管ヨリ巡查令狀ヲ帶行シ執行ヲ求ムルキハ令狀ノ正本ニ左ノ裏書ヲ爲シ直ニ所屬巡查ヲシテ帶行巡查ト共ニ執行セシ

表書ノ令狀帶行ニ付執行セシメ候事
何警察署

年 月 日

警察正使何某印

〔對照〕 明治十四年九月二十日 司法官ヨリ巡查及ヒ兵員ヲ要求使用

スルコトハ左ノ手續ニ從フヘシ此旨相達候事

第一條 裁判官檢察官及ヒ司法警察官治罪法ニ從ヒ檢證及ヒ物品差押其他職務ヲ行フニ當リ必要ナル時ハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會シテ巡查又ハ憲兵卒ヲ使用スルヲ得

但シ時機緊急ナル時ハ直チニ之ヲ使用スルヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ涉ル時ハ直チニ鎮臺又ハ分營ニ照會シテ兵力ヲ要求スルヲ得

〔對照〕 明治十四年三月十一號 憲兵條例

第十條 軍人ノ逃亡及ヒ潜伏スル者等ハ陸軍ノ諸官廨ヨリノ命令

ヲ得テ之ヲ逮捕ス可シ

〔對照〕 刑法第二百五條 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變

換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

〔參照〕 明治七年七月十二日 東京府管下兵隊屯營ヲ除クノ外官廳地

官用地構内ニ居住シ者有之ニ付テハ警察上取調ノ爲メ警部又ハ巡

査等其守門者ハ申通臨時立入候義可有之候條爲心得相達候事

〔參照〕 千八百八十八年十一月十七日 佛蘭西治罪法

第九十九條 被告人引出狀ニ從ヒ出席スルコト肯セス又ハ之ヲ肯

シタル旨ヲ述ヘタル上ニテ逃亡セントスル時ハ之ヲ召捕フ可シ

引出狀ヲ送達スル官吏已ムヲ得サル時ハ最近ノ公ケノ兵力ヲ借
求ム可シ但シ公ケノ兵力ヲ預カル者ハ引出狀ニ求援ノ旨ヲ記シタ
ルコトヲ見タル上ニテ即時ニ其兵ヲ進行セシム可シ

〔明治十四年三月十三日 警視廳第四百三十三號達〕

巡查現行犯人ヲ捕押タル時

告發狀書式

告發狀

何號

何年何月何日何時何交番所在勤中或ハ巡行中氏名不知者ノ報告
或ハ往來ノ動搖ニ覺リ何町何ノ某方ニ到リタル處鮮血ノ滴レル
刀ヲ携居ルニ付現時捕押云々或ハ何町街道ニ於テ衆人ニ哄傳セ
ラル、ヲ以テ現行犯人ト見認シ直ニ捕押ア時ハ詳記スヘシ氏名

尋問スルニ何町何ノ某ト申立テタリ依テ警察使何某ノ前ニ引致
セリ

明治何年何月何日

何屯所詰

巡査 何某印

〔明治十四年十二月廿三日〕
警視廳第四百三十三號達

被告人潜匿ニ付テノ家宅搜索調書

住所身分職業

氏名

右何所ニ潜匿シタリト思料シタルニ付戸長某若クハ隣佑甲某ノ
立會ニ依リ何月日時ヨリ何時マテ室内何々等ヲ搜索シタルノ處
何所ニ於テ被告人何某ヲ取押ヘタリ（又被告人發見セサル時ハ）遂ニ被告人何

某發見セス依テ調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印致候也
年 月 日

何屯所詰

巡査 氏名印

〔明治十四年十二月廿八日〕
警視廳第四百三十六號達

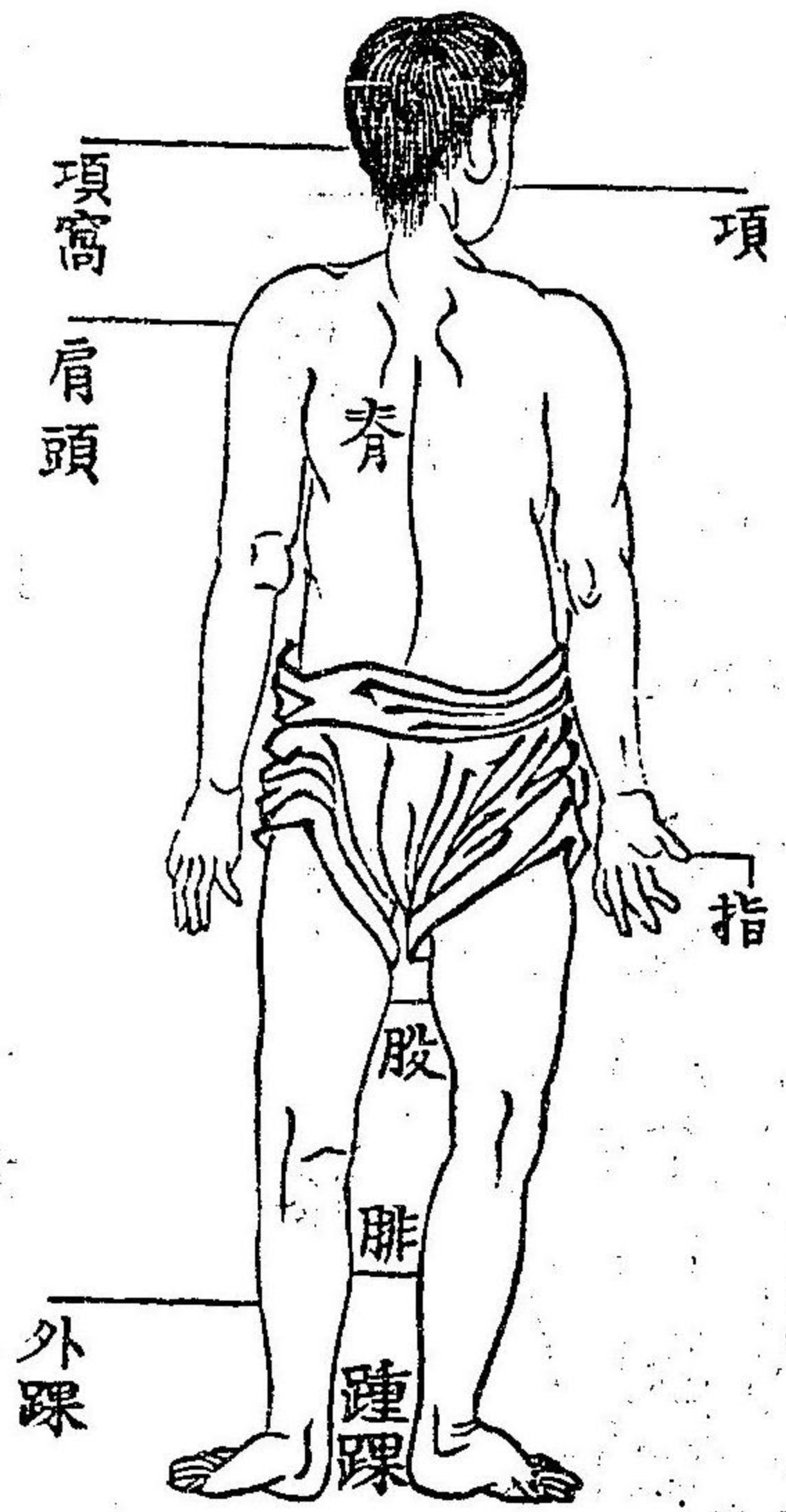
違警犯調書式

違警犯調書

明治十五年十二月三十一日前十二時南葛飾郡八郎右衛門新田千八
百五十四番地甲田乙右衛門猫ノ死屍ヲ道路ニ棄擲取除カサルハ違
警罪ニ觸ル、モノト思量スルヲ以テ此旨告發ス

明治十五年十二月三十一日

巡査 何某印



明治十五年十二月廿六日出版御届
 明治十六年一月 出版

(定價金四拾錢)

編纂人

大坂府平民

清水喜一郎

東京本所區綠町五丁目
 廿一番地寄留

出版人

東京府平民

鈴木常助

同日本橋區
 通三丁目拾番地

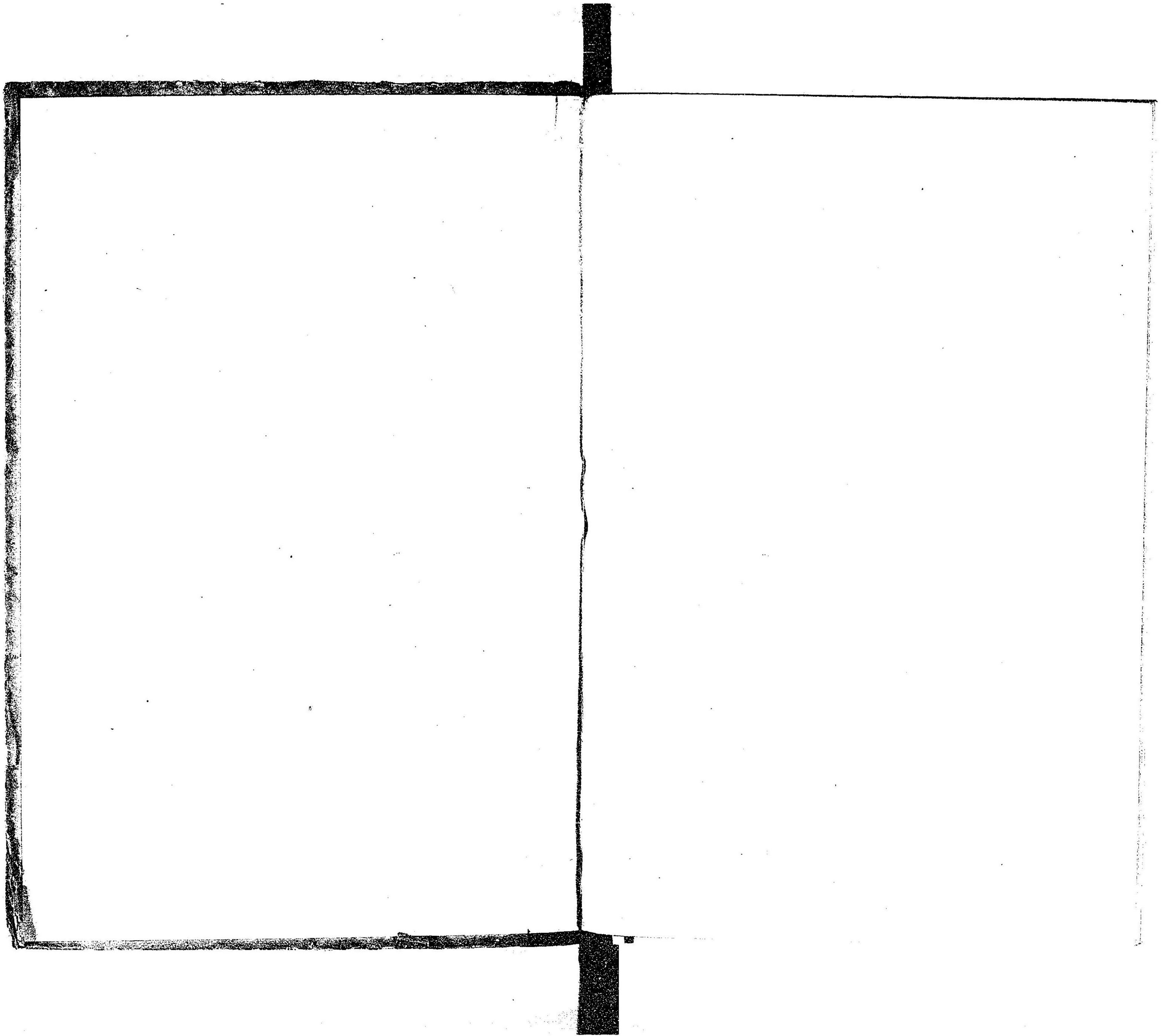
三府諸縣發弘善肆

東京 同

北畠茂兵衛
稻田佐兵衛
山中市兵衛
坂上平七
須原鍊二
丸屋善七
博聞本社
山中孝之助
牧野吉兵衛
北澤伊八
出雲寺
水野慶次郎
東生龜次郎
江島喜兵衛
加藤正七

京都 同 同 同 大坂 同 同 尾張 甲府 長野 金澤 越後 陸前 肥前 肥後 下野

村上勘兵衛
大谷仁兵衛
田中治兵衛
柳原喜兵衛
前川善兵衛
岡島真七
片野東四郎
内藤傳右衛門
西澤喜太郎
近岡屋太平
鳥屋十郎
菅原屋安兵衛
河内莊助
長崎次郎
菅谷甚平



東 京 圖 書 館

新 門 四 七 函

一 部 四 架

類 號



10
/
33

清水喜一郎編纂

刑法
治罪法
警官職務必携

初篇

明治十六年一月印行

035848-000-2

CZ-711-030

刑法治罪法警官職務必携

清水 喜一郎/編

M16

BBP-0434

